

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 2022 明海大学 「大学と地域連携の未来」シンポジウム

2022年2月5日（土）午後12時30分から午後4時45分まで、2022明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウムが開催されました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、昨年度に引き続き Zoom によるオンラインで開催されました。今回のテーマは「大学生ボランティアの関わり方を探る～社会に開かれた教育課程から考える～」としました。2021年度において明海大学の学生や教職員等が実施した小中高等学校に対する支援の実施状況について紹介するとともに、その成果と課題などについて広く地元関係者・関係機関等とともに考察し、明海大学の今後の地域支援の在り方を探ることを目指しました。

開会式では、安井利一学長のあいさつに続き、足立区長 近藤やよい様、浦安市教育委員会教育長 鈴木忠吉様からあいさつを頂戴し、閉会式では足立区教育委員会教育長 大山日出夫様からあいさつを頂戴しました。

有意義な一日となりましたことに心から感謝申し上げます。

基調講演 「ナナメの関係の可能性 ～大学生ボランティアの全国事例から考える～」

基調講演は、講師として桜美林大学入学部高大連携コーディネーターの今村亮氏をお招きし、「ナナメの関係の可能性 ～大学生ボランティアの全国事例から考える～」をテーマに具体的かつ実践的な内容のお話をさせていただきました。

今井氏のプロフィールと講演概要は以下のとおりです。

【プロフィール】

- ・1982年熊本市生まれ。
- ・2003年より10代の可能性を引き出す事業を全国で創出。
- ・2019年に「ディスカバ！」を立ち上げ、2020年より現職。
- ・文部科学省熟議協働員、岐阜県教育ビジョン検討委員会委員を歴任。

○2021年現在：

- ・桜美林大学高大連携コーディネーター、慶應義塾大学非常勤講師、NPOカタリバパートナー、中野区区民公益活動推進協議会委員

◆著書：共著『本気の教育改革論』（学事出版）

【講座概要】

①子ども・若者を取り巻く現状

国が「Society5.0」と称する新しい時代が始まっている。子どもたちの意識はどのような状況にあるのか。また、新型コロナウイルスによる影響を受け、どのような変化が起こっているのか。

②「ナナメの関係」とは？

10代の意欲と創造性を引き出すのは、他者との関係性。これまで認定NPO法人カタリバが提唱してきた「ナナメの関係」という考え方にヒントを見出し、後段の議論へとつなぐ。

③大学生が活躍する全国事例

(1) NPOの事例 (2) 行政の事例 (3) 大学の事例 を提示し、比較。

④「ボランティア」の意義と課題について

インターンシップ、アルバイト、授業、正課外プログラム。大学生の活動には様々な形式がある。中でも「ボランティア」という在り方の意義と課題について整理。

⑤まとめ

大学生ボランティアの活動がよりよく広がるために必要なものとは？現場から提言する。



学生発表 学生の4グループによるプレゼンテーション

今回のシンポジウムの特徴は、「学生の発表」を核にしたことです。明海大学の学生4グループが本年度に実施した小中高等学校に対する支援について、プレゼンテーションしました。

▶グループA：大学生による日本語指導支援

本学と教育に関する連携協定を結んでいる東京都立飛鳥高等学校及び東京都立南葛飾高等学校で、日本語指導が必要な外国人生徒に外国語学部日本語学科及び応用言語学研究科の学生が日本語指導支援を行いました。このことについて、具体的な内容を紹介しました。

▶グループB：留学生による児童・生徒との交流

東京都足立区の小学生・中学生との交流、東京都立高校生との交流、東京都立高校への訪問の様子について、実際に携わった本学の留学生と学生が具体的な内容を紹介しました。

▶グループC：教育委員会等との連携による児童・生徒支援

東京都立高校「校内寺子屋」、千葉県浦安市青少年自立支援未来塾、千葉県浦安市学習活動支援事業「ドラフトゼミ」における児童・生徒への支援の様子について、実際に携わった本学の学生が具体的な内容を紹介しました。

▶グループD：大学生による英語学習支援

千葉県浦安市立小学校における外国語授業での支援、東京都足立区の中学生・高校生、区民対象の講座における英語支援、文部科学省委託小学校外国語科等講座における模擬授業場面での協力の様子について実際に携わった学生が具体的な内容を紹介しました。



パネルディスカッション 大学生ボランティアの関わり方を探る～社会に開かれた教育課程から考える～

シンポジウムのまとめとして「大学生ボランティアの関わり方を探る～社会に開かれた教育課程から考える～」のテーマのもと、パネルディスカッションを行いました。

本学の大学生ボランティア活動の在り方に対し、高大連携コーディネーターの視点から、教育行政の視点から、受入学校現場の視点から、参加した学生の視点から、そして参加した留学生の視点から、掘り下げることで、明海大学の今後の地域支援の在り方を探りました。

パネリストとして、基調講演講師の今村亮氏、本学と連携している足立区教育委員会学力定着推進課長の田巻正義氏、都立南葛飾高等学校長の佐藤幸司氏、本学学生を代表して英米語学科3年の君塚翔伍さん、本学留学生を代表して英米語学科3年のR.P.P. マドゥランガ クマーラさんがそれぞれの立場から貴重な意見を述べてくだ



さいました。その後、本学地域学校教育センターの木内和夫教授のコーディネートにより、テーマに迫るための協議をさらに深めることができました。

アゴラ活用状況(人)	
1月合計	298
2018年度からのべ数	38,168